

小中学生ボランティア 高松で体験発表会

高松市の小中学校の児童・生徒が学校や地域などで取り組む奉仕活動を紹介する第14回「少年ボランティア発表会」が27日、市内のホテルで開かれた。12小中学校から参加した約130人がボランティアを通して



地域や学校で取り組んだ奉仕活動などを発表する児童たち—高松市

感じた貴重な体験などを報告した。
社会奉仕団体の高松キワニスクラブ（太田賀久会長）が主催。同クラブでは毎年、各校から「こんなボランティア活動をします」という提案を受け、それぞれの活動に対して助成金を

給付。その総括・整理や学校相互の交流の場として発表会を開催している。
今回の発表会では、子供たちが奉仕活動を通して得た喜びなどを披露。市立牟礼南小の児童たちは神社や海岸の清掃活動などを報告し、「気持ちはずがすがし

くなり、心も大きく豊かになった」と感想を述べた。市立仏生山小の児童たちは特別養護老人ホームでの体験を紹介し、「高齢者の気持ちが変わり、自分自身を振り返るきっかけになった」と話した。

平成28年1月28日 四国新聞

奉仕精神の大切さ訴え 高松 小中学生が活動発表



学校で取り組んでいるボランティア活動を発表する児童—高松市内

学校で取り組んでいる奉仕活動を紹介する「少年ボランティア発表会」（高松キワニスクラブ主催）が27日、高松市内であり、12校の小中学生が成果報告を通じてボランティア精神の大切さなどを訴えた。

同市沖の大島にある庵治第二小は初参加。島内にある国立ハンセン病療養所・大島青松園の入所者をイベントに招待したり、島の良さを多くの人に知ってもらったためにガイドマップを作ったりした取り組みを報告

し、「ボランティアをすることで、自分の心の成長も感じることができた」と成果を発表した。

このほか、あいさつを広める運動に取り組む下笠居小、小学校低学年の学校生活を手助けしている高松第一中などが登壇、活動内容を紹介した。他校の発表を

聞く児童は、自分たちの参考にしようとする真剣な表情でメモを取っていた。

発表会は、子どもたちにボランティア精神を育んでもらうのが目的で、今年で14回目。同クラブは今回の発表会に参加した小中学校に対し、活動の助成金3万円を贈っている。